

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																														
中央工学校OSAKA		昭和61年3月31日	中村 聖吾	〒 561-0872 (住所) 大阪府豊中市寺内一丁目1-43 (電話) 06-6866-0800																														
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																														
学校法人 中央工学校		昭和39年3月27日	堀口 一秀	〒 114-8543 (住所) 東京都北区王子一丁目26-17 (電話) 03-3906-1211																														
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
工業	工業専門課程	住宅デザイン学科	平成24(2012)年度	-	平成27(2015)年度																													
学科の目的	工業分野に従事しようとする者に、企業との連携の上で実務性の高い専門知識及び技術・技能を修得させるとともに志操堅実な技術者を育成する事を目的とする。																																	
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	日本で最も多い木造住宅を中心に、戸建て住宅の設計手法を身につけていく。人が住む環境を様々な視点から学び、住空間をデザインする能力を養う。 取得可能な資格:2級建築施工管理技士補、建築積算士、福祉住環境コーディネーター、色彩検定等																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,748 単位時間 単位	736 単位時間 単位	1,012 単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)	留學生割合(B/A)																															
80人	55人	0人	0%																															
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業生数(C)</td><td>26</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>19</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>19</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>15</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>79</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>73</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>6</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>・進学先:本校研究科6人 (令和4年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 建築業界</p>						■卒業生数(C)	26	人	■就職希望者数(D)	19	人	■就職者数(E)	19	人	■地元就職者数(F)	15	人	■就職率(E/D)	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	79	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	73	%	■進学者数	6	人	■その他			
■卒業生数(C)	26	人																																
■就職希望者数(D)	19	人																																
■就職者数(E)	19	人																																
■地元就職者数(F)	15	人																																
■就職率(E/D)	100	%																																
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	79	%																																
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	73	%																																
■進学者数	6	人																																
■その他																																		
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																	
当該学科のホームページURL	https://www.chuoko-osaka.ac.jp/																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A:単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>2,520 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>1,326 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,748 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>906 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B:単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>						総授業時数	2,520 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	1,326 単位時間	うち必修授業時数	1,748 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	906 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	2,520 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	1,326 単位時間																																	
うち必修授業時数	1,748 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	906 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																	
総授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																	
うち必修授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																	

教員の属性（専任教員について記入）	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	6人
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人
	計	7人
	上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	7人

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専門学校の目的は「職業もしくは実際生活に必要な能力を育成し、又は教育の向上を図る」ことにある。本校は、建築系専門学校として100年余の歴史と伝統のある中央工学校のグループ校で、工業技術教育を行う専門学校として技術者の育成を行っているが、広く社会の要請に応じた組織的な教育を行うためには、企業等との連携は欠かせない。専門課程の教育内容に適した企業との連携により、実践的な職業教育水準の維持向上に努める。特に教科構成や実習・演習の実施、教員研修について、企業等の意見を反映させるように取り組む。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

上記基本方針に則り、校長の下に教育課程編成委員会を置き、全学科の教科構成について、実務における重要事項が該当する学科のカリキュラムに反映されているかを確認する。

指摘を受けた内容について、各学科において詳細検討を行い、改善項目を校長に報告する。校長は教育課程編成委員会委員にその旨を伝達する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
小松原 学	富士教育訓練センター校長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	①
金沢ちかこ	公益社団法人日本インテリアデザイナー協会 西日本エリア副エリア長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	①
小坂田昌広	株式会社松本組取締役兼副社長執行役員	令和4年4月1日～令和6年3月31日	③
田中 由之	株式会社PPI計画・設計研究所取締役設計室長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	③
岩尾 美穂	オフィスいんどり代表	令和4年4月1日～令和6年3月31日	③
中村 聖吾	中央工学校OSAKA校長	—	—
原 充介	中央工学校OSAKA教務部長	—	—
戸澤 まり子	中央工学校OSAKA建築系学科長(教育)	—	—
中島 征治	中央工学校OSAKA建築系学科長(進路・広報)	—	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

本校は二期制のため、前・後期の節目となる時期を定めて年2回教育課程編成委員会の開催を原則とする。(9月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月22日 15:00～17:00

第2回 令和5年2月17日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会により出された意見は、翌年度の教科構成に反映をさせる。

令和4年度については、令和4年9月および令和5年2月開催の同委員会の結果を鑑みて、教科構成の必要な修正を行うものとする。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習・演習等は専門学校教育の根幹をなす重要なものである。よって、常に最新の技術を指導する必要があるため、そのために学校と企業等が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育となるように努める。
 連携を行う企業とは、雇用契約書を取り交わし、契約の趣旨に則り実践的な職業教育を行うものとする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

上記基本方針に則り、次の項目について連携を行う。

- ①カリキュラムの作成
- ②講義及び実習の実施
- ③講義・実習教材の作成
- ④成績評価及び進級審議等に関する助言
- ⑤その他の実習運営上に必要となる事項

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
建築・インテリアデザイン演習	建築・インテリアの職業に就くために必要な「空間」づくりの基本を学ぶことを目的とする。 課題を通して、以下の力を身に着けることを目標とする。 (1)色が与えるイメージや基本的な色の構成を理解する (2)空間創造のコンセプトワークによって、イメージを具体的な空間に落とし込む能力を養う (3)模型を制作する基本的な技術と表現力を身につける。	岡建築デザイン事務所 感響創造クーハウス
設計演習 I	住まいのアイデアが形となって完成するまでの設計プロセスに注目し、一般的な住戸の形式にとらわれず、空間を自由に発想することで、住宅デザインの軸となる設計力を養う。また、設計したものをコンペに応募する状況を想定して、作品として伝えることを意識した見せ方を学ぶ。	一級建築士A.S.A.P.design Lab. 一級建築士事務所 岩井文彦建築研究所
CAD演習	現在の建築技術者にとってITスキルは不可欠であるため、その一つとしてCADによる図面作成技術を、業界で最も使用されているソフトを用いて習得させる。	Radian design and architecture Terranova planning

建築製図演習	<p>木造2階建住宅の設計を通じ、</p> <p>(1)「建築・インテリア基礎製図演習」で学んだことを振り返り、必要図面と記入事項を覚える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計図書の理解(配置図、平面図、立面図、断面図、矩計図、展開図、仕上表) ・各設計図書に印すべき事項 <p>(2)住宅の設計において考慮すべき基本的な事を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住み心地を考慮した部屋の配置 ・人間の寸法に合った適切な部屋や廊下、家具等の大きさ ・最低限の法規チェックとして、容積率、建ぺい率、北側斜線の計算ができる <p>(3)木構造への理解を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこに柱を配置すればよいのか、また、柱スパンの上限値を理解する ・梁が架かる位置と梁のサイズを算出する手法を知る ・断面図を描く際に、天井裏のふところを理解する 	材寄建築設計室 Terranova planning
BIM演習	<p>設計演習Ⅱの課題を、BIMモデルで作成することにより、BIMによる設計の手法を身につける。</p> <p>BIMへの入門として、ArchiCADの基本操作を修得する。また、課題を与え、実際に図面を作成することで、2次元CADとの違いやBIMによる設計の基本を理解する。</p>	Radian design and architecture Terranova planning

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校の教育職にあるものは、各自が担当する授業の分野に応じ、企業等と連携の上で高度化、多様化する理論及び新技術等について研修に努めなければならない。

校長に承認を得た者は企業等と連携の上で、校外研修(長期研修・短期研修)及び特別研修を行うことができる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 令和4年度職員研修発表会

連携企業等: (社)大阪府専修学校各種学校連合会等

期間: 令和4年8月26日(金)

対象: 大串、唐木、井手、吉田、松本、タム

内容: 大専各主催の新任教員研修の研修内容の報告及び教員による自主研修内容の発表を行う

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 令和4年度新任教員研修会

連携企業等: (社)大阪府専修学校各種学校連合会

期間: 令和4年8月1日(月)～8月4日(木)、8月18日(木)～19日(金)

対象: 大串

内容: 新任職員向けの専修学校教員として必要な基礎知識の習得を目的とした研修

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 令和5年度職員研修発表会

連携企業等: (社)大阪府専修学校各種学校連合会等

期間: 令和5年8月25日(金)

対象: 吉田、篠崎、金村、村上

内容: 大専各主催の新任教員研修の研修内容の報告及び教員による自主研修内容の発表を行う

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 令和5年度新任教員研修会

連携企業等：(社)大阪府専修学校各種学校連合会

期間： 令和5年8月1日(月)～8月8日(木)

対象： 吉田

内容 新任職員向けの専修学校教員として必要な基礎知識の習得を目的とした研修

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学生が質の高い実践的な職業教育を享受できるよう、学校運営の改善と発展を目指すため、中央工学校運営指針に則り自己評価を実施する。

実践的な職業教育を目的とした、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成の適切さ等について評価を行うことが目的となる。

また、卒業生・企業・業界団体等の学校関係者を選任し、自己評価結果についての改善に向けた専門的な助言を受け、組織的・継続的な改善を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①教育理念・目的・育成人材像は定められているか ②学校における職業教育の特色は何か ③社会のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④教育理念・目的・育成人材像・特色・将来構想は、学生・保護者等に周知されているか ⑤教育理念・目的・育成人材像・特色・将来構想は、対応業界のニーズに対応しているか
(2) 学校運営	①目的等に沿った運営方針が策定されているか ②学則・細則・内規等は整備されているか ③コンプライアンス体制が整備されているか ④教育活動に対する情報公開が適切になされているか ⑤情報システム化等により業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	①各学科のカリキュラムは体系的に編成されているか ②カリキュラムや教育方法の工夫・開発・見直しが行われているか ③授業評価の実施体制はあるか ④資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ⑤成績評価の基準は明確になっているか ⑥教員資質向上のための研修が行われているか
(4) 学修成果	①就職率の向上が図られているか ②資格取得率の向上が図られているか ③退学率の低減が図られているか ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し、教育の改善に活用されているか
(5) 学生支援	①進路・就職に関する支援体制は整備されているか ②学生相談に関する体制は整備されているか ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤保護者と適切に連携しているか

(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ①施設・設備は、教育上の必要性に充分対応できるよう整備されているか ②学内外の実習施設・インターンシップ等について充分整備されているか ③防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ①学生募集活動は適正に行われているか ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ③学納金は妥当なものになっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか ③財務について会計監査が適正に行われているか ④財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか ③財務について会計監査が適正に行われているか ④財務情報公開の体制整備はできているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ①留学生の受入れについて戦略を持って行っているか ②受入れ・在籍管理等について適切な手続きがとられているか ③留学生の学習支援について、適切な体制が整備されているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会を開催し、学校関係者からの指摘を受け、令和元年度中央工学校OSAKA学校教育計画にこれらの是正事項を示し、自己評価において、それらの是正状況を確認する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
小松原 学	富士教育訓練センター校長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	①
金沢ちかこ	公益社団法人日本インテリアデザイナー協会 西日本エリア副エリア長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	①
小坂田昌広	株式会社松本組取締役兼副社長執行役員	令和4年4月1日～令和6年3月31日	③
田中 由之	株式会社PPI計画・設計研究所取締役設計室長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	③
岩尾 美穂	オフィスいんどり代表	令和4年4月1日～令和6年3月31日	③

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.chuoko-osaka.ac.jp/campus/information/>

公表時期: 令和4年10月上旬

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

URL: www.chuoko-osaka.ac.jp

ホームページ・教職員会議にて令和5年度教育基本方針を配布

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①建学の目的 ②基本的運営方針 ③重点管理指針
(2) 各学科等の教育	①具体的方策 ②各学科の重点管理項目
(3) 教職員	①教員資質の向上と新技術の修得 ・教員研修発表会 ・校外研修(企業等との連携)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	①実技・実習を中心とした職業教育への取り組み ②特別活動による校外実習 ③企業等と連携した校内実習
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学生満足度の向上 ・学生アンケート ・学生による授業評価 ②資格取得支援 ③外部に対する情報公開

(6) 学生の生活支援	①スポーツ大会、緑地祭を中心とした楽しい学校づくり ②担任を中心とした生活指導 ③進路指導 ・就職指導 ・進学指導 ・留学生進路指導
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項・パンフレット等にて公開しているが、企業等に対する特別な公開をしていない。
(8) 学校の財務	企業等に対する特別な公開をしていない。
(9) 学校評価	①自己評価・公表 ②学校関係者評価・公表
(10) 国際連携の状況	特になし
(11) その他	①保護者との連携 ②専門学校との連携 ③教育機関との連携 ④防災対策の整備 ⑤個人情報の保護

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・**広報誌**等の刊行物・その他())

URL: <https://www.chuoko-osaka.ac.jp/campus/information/>

公表時期: 令和5年10月上旬

授業科目等の概要

(工業専門課程住宅デザイン学科)																
分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
									講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	1		○	カラーコー ディネート	公益社団法人色彩検定協会（A・F・T） の色彩検定2級検定試験に合格できる能力 を身に付けさせる。	1 通	106		○			○			○	
	2		○	カラーコー ディネート	公益社団法人色彩検定協会（A・F・T） の色彩検定2級検定試験に合格できる能力 を身に付けさせる。	2 通	106		○			○			○	

3			○	ビジネス能力検定	ビジネス能力検定（B検）ジョブパス2級・3級に合格できる能力を身に付けさせる。	1通	106		○			○			○	
4			○	ビジネス能力検定	ビジネス能力検定（B検）ジョブパス2級・3級に合格できる能力を身に付けさせる。	2通	106		○			○			○	

7	○	建築施工管理技術	2級建築施工管理技術検定試験を合格を目標にして、入学してから学習した建築全般（計画・法規・構造・施工）の知識の総復習を行う。	1通	106	○	○	○
8	○	建築施工管理技術	2級建築施工管理技術検定試験を合格を目標にして、入学してから学習した建築全般（計画・法規・構造・施工）の知識の総復習を行う。	2通	106	○	○	○

11	○			<p>数学</p> <p>建築に必要な数学の基礎を習得することを目標とする。 使用する単位、面積計算に必要な図形、力学計算に必要な三角比・関数計算とグラフの関係・指数計算ができるようにする。</p>	1 前	36		○			○				○
12	○			<p>建築・インテリア概論</p> <p>建築系の各分野で活躍されている方から業界の魅力を学び、自らの働く姿を想像し卒業後の目標を見つける手がかりとする。 また、現場の実情なども知り社会的な課題と共に、今後の展望について技術者像をイメージするきっかけとする。</p>	1 前	36		○			○			○	○

13	○			<p>建築・インテリア計画</p> <p>日常生活と建築・インテリアとの関わりについて考えさせるとともに、建築・インテリア計画を進めるための基本事項を理解させ、過去の作品例を分析しつつ、未来に対応できる建築家としての能力を養う。 生活空間のあり方を人間のサイズや行動からとらえたうえで、色、形、材質及び、その構成や、構造が及ぼす影響を理解し、創造的で豊かな建築・インテリアの計画を目指す姿勢を養う。</p>	1 前	36					○			○			○	○
14	○			<p>建築史 I</p> <p>西洋建築（石の建築）と日本建築（木の建築）の歴史を全般的に学ぶことで、人間の暮らしと建築物、そして環境との関係性について知るきっかけとする。 また、日本国内だけでなく世界の建築物を通して建築に対する見識を広げる。</p>	1 前	36					○			○			○	

15	○		構造力学 I	<p>構造物（建築物）がいかにかに建っているのか、力はどのように働くのか、力学的な考え方の基礎を理解する。</p> <p>建築物がなぜこのような形をしているのか、どのように計画していくかを理解するための一歩目とする。以下の理解・習得を目標とする。</p> <p>(1) 力の性質と表現方法を理解する (2) 力を分解することができる (3) 反力を、力のつり合いをもとに単一材と簡単なラーメン構造で求めることができる</p>	1 前	36		○			○			○		
16	○		建築構造 I	<p>木構造の基本的な組み方と部材を性質とともに理解し、「建築インテリア基礎製図演習」と連動して、図面を描いたり設計をする際の基礎知識を養う。</p> <p>二級建築士受験の上でも科目の1つとなっている分野であるので、受験を想定した問題にも取り組む。</p>	1 前	36		○			○			○		

17	○			建築・インテ リア基礎 製図演習	木造における基本的な設計図書一式（平面図・立面図・断面図・矩計図・展開図・伏図・仕上表）のトレースを通じて、線の描き方から図面として記載すべき項目や描き方の決まりごと等の基本的な製図技法を身に付け、覚える。	1 前	144				○		○		○	○	○
18	○			I T リテラ シー	パソコンの起動、終了、保存、マウス・キーボード操作、基本用語、PC各部の名称などの基本を学び、MicrosoftOfficeの操作を習得する。 また、インターネットを活用する上での安全な使い方や、分析して活用する能力を身に着ける。	1 前	36				○		○		○	○	

23	○	環境工学	<p>室内の環境設計に必要な空気、熱、光、音等の環境要素について、人間や建築物に関わるものを中心として、物理的な考え方を基礎から学ぶ。</p> <p>また、それらの知識を生かした具体的な設計事例を知ることで理解を深め、演習課題で知識を活用できるようになることを目標とする。</p>	2 前	36	○	○	○
24	○	建築・住宅設備	<p>住宅における「設備」とは何かを理解し、建築一般の設備の役割および種類・構成を学ぶ。</p> <p>また、地球環境問題と建物の省エネルギーとの関わりについて理解し、社会情勢を踏まえた住宅のあり方を考えられるようになることを目標とする。</p>	2 後	34	○	○	○

25	○			住宅デザイン史	近代住宅の発展過程と設計理論から、住まいに影響を及ぼす時代背景やデザインの意図をひも解くことによって、これからの住まいのあり方を主体的に考えていくための創造力を養う。	2 前	36		○			○				○
26	○			建築法規 I	建築基準法の読み方・引き方を理解し、主に住宅設計にどのように影響するのか、基本的な規定（単体規定）を理解する。 また、演習を通じて実務でも対応できる力の習得につなげる。 二級建築士受験の上でも科目の1つとなっている分野であるので、受験を想定した問題にも取り組む。	2 前	36		○			○				○

27	○	建築法規Ⅱ	<p>建築基準法及び関係法令について、建築法規Ⅰに引き続き、基本的な規定（集団規定）を理解すると共に、演習を通じて能力を養うことで実務でも対応できる力の習得につなげる。</p> <p>二級建築士受験の上でも科目の1つとなっている分野であるので、受験を想定した問題にも取り組む。</p>	2 後	34	○	○	○
28	○	構造力学Ⅱ	<p>構造力学Ⅰで習得した考え方を基本とし、応力について理解することを目標とする。</p> <p>また、構造力学Ⅲで習得する応力度の考え方の基本として、断面に関する数値と性質について学ぶ。具体的には以下を習得することを目標とする。</p> <p>（1）部材の内部に生じる力（応力）を理解し、応力の求め方と応力図の基本的な描き方を身に着ける。</p> <p>（2）トラス構造の基本を理解し、トラスの軸方向力（応力）を求める力を身に着ける。</p> <p>（3）断面の性質を理解し、図心、断面二次モーメント、断面係数を求める力を身に着ける。</p> <p>また、二級建築士受験の上でも出題範囲となるので、受験を想定した問題にも取り組む。</p>	1 後	34	○	○	○

29	○		構造力学Ⅲ	<p>以下について、考え方を理解した上で基礎的な計算ができること目標とし、二級建築士受験を想定した問題にも取り組む。</p> <p>(1) 応力度を理解し、許容応力度から部材の安全性を判定できる力を身に着ける。</p> <p>(2) 部材の形状と座屈・たわみの関係を理解し、座屈荷重や座屈長さ、たわみの大きさについて大小を比較検証できる力を身に着ける。</p> <p>(3) 弾性と塑性について理解し、崩壊荷重を求められる力を身に着ける。</p> <p>(4) 不静定構造物について、基礎的な解法を理解する。</p>	2 前	36		○			○			○			
30	○		構造設計	<p>まず、構造設計の基本的な方針と構造設計におけるルート（流れ）があることを学ぶ。</p> <p>そして、習得した構造力学の知識も活用しながら、構造設計で必要となる力の法則について理解した上で、建築物に対して発生する荷重や風圧力や地震力など具体的な設計に必要な考え方を数値と共に学ぶ。</p> <p>また、構造種別による性質と部材の検討方法について理解することを目標とする。</p>	2 後	34		○			○			○			

31	○		建築構造Ⅱ	各種構造の概要を理解させ、設計等の実践に対する応用力を養う。	1 後	34		○		○			○	
32	○		建築材料	<p>建築に使われる材料の知識を幅広く一般的に理解し、卒業制作にも活かすことを目標とする。</p> <p>材料の特徴を踏まえた上で内装材まで丁寧に選び、説得力のある作品づくりに励むことを期待する。</p>	2 後	34		○		○			○	

35	○	住 環 境 コ ミュティ デザイン	<p>都市計画・地域計画に関する住宅をとりまく環境について、実践的なワークも行いながらどうやって「まち」はできるのか等、地域や都市についての考え方を学ぶ。</p> <p>また、「町づくり」への関わりあいや、住宅を建築することによる周囲に与える影響などを掘り下げて考えられるようにし、住宅設計への視野を広げることを目標とする。</p>	2 後	68	○	○	○										
36	○	建 築 製 図 演 習	<p>木造2階建住宅の設計を通じ、</p> <p>(1) 「建築・インテリア基礎製図演習」で学んだことを振り返り、必要図面と記入事項を覚える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計図書の理解（配置図、平面図、立面図、断面図、矩計図、展開図、仕上表） ・各設計図書に印すべき事項 <p>(2) 住宅の設計において考慮すべき基本的な事を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住み心地を考慮した部屋の配置 ・人間の寸法に合った適切な部屋や廊下、家具等の大きさ ・最低限の法規チェックとして、容積率、建ぺい率、北側斜線の計算ができる <p>(3) 木構造への理解を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこに柱を配置すればよいのか、 <p>また、柱スパンの上限値を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梁が架かる位置と梁のサイズを算出する手法を知る ・断面図を描く際に、天井裏のふところを理解する 	1 後	136	○	○	○	○	○								

41	○			福祉住環境 リフォーム 演習	住宅では、時と共に住みづらくなる事例が 様々ある。授業では、どのような事例が考 えられるのかを学ぶと共に、どのようにリ フォームをすれば豊かで安心できる生活が できるのかを考えていく。 バリアフリーの考えに基づいた居住空間 や、ユニバーサルデザインなどといった福 祉の観点から住まいづくりができる力をリ フォームプランの制作課題を通して身に着 けることを目標とする。	2 前	72				○	○	○	○	
42	○			卒業制作	今までに各科目で習得した知識や技術を 総合して、一つの作品制作を行う。主に、 以下の住宅設計における基本的な考え方と 作図能力を発揮し、表現することを目標と する。 ・課題、目的の発見から解決、達成まで のプロセスを考える力（テーマ設定～エス キス） ・課題、目的に対する答えを住宅として 適格に空間に置き換える力（エスキス～基 本設計） ・考えを形にして表現する能力（基本設 計～実施設計：作図や模型、その他必要図 書の理解） ・作品をより伝える方法でプレゼンテー ションする力（発表）	2 後	136				○	○	○	○	○

43	○			<p>自分の考えを他者にうまく伝えるという事は、非常に重要であり、その機会は増える一方である。さまざまなシチュエーションで話ができるように、デジタルツールを利用しての話し方やスライドデザインなど、プレゼンテーションのスキルアップを向上させる。</p>	2後	68				○		○				○	○
44	○			<p>照明が空間へもたらす効果や心理面への影響を理解した上で、器具についての基礎知識から選定の基準、住宅における配灯計画の手法を学ぶ。また、住宅の照明計画の課題を通して、設計実務の基礎能力を高めることを目標とする。</p>	2後	34				○		○				○	○

45			○	<p>インテリア スタイリン グ演習</p>	<p>住まいのインテリアコーディネートのための技術・知識を養うために、住空間を構成する様々なエレメントと、住まい手のかかわりについて、人間工学、人体寸法、動作空間、空間の心理などを踏まえて的確にとらえる力をつける。 また、クライアントのライフスタイルの分析や、住宅やインテリア業界におけるマーケティングを含めたニーズの把握について学び、発想力を培う。そのために、カラーやフォルム、テクスチャを活用して、いかに空間に、クライアントの個性を落としこみ、調和の取れたインテリアを創造していくかを理解する。</p>	1 後	68				○		○		○	○	○
46			○	<p>デジタルブ レゼンテー ション演習</p>	<p>色彩・レイアウトなどグラフィックデザインの基礎を学び、建築・インテリアのプレゼンテーションにおける図面・ボード・ドキュメント等のデジタルによる表現方法を習得する。</p>	1 後	34				○		○		○	○	

49			○	古民家リノベーション演習	<p>伝統的な建築物には、その土地土地の気候や時代背景に加え、多くの知恵と工夫が詰まっている。それらをひも解きながら、古民家の再生リフォームに必要な知識や考え方を学ぶ。また、見学を通して伝統的な木造住宅における工法・材料・道具等の知識を習得し、リフォームの実例から古民家再生の手法を学ぶ。</p>	2後	34				○		○		○	○
50	○			アッセンブリーアワー	<p>学校生活を通して、充実した学びと自己実現を図れるようになることを目的として、以下の力を身に着けることを主な目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 学校行事やクラス運営に関することを理解し、管理する力 (2) 自らの意志で継続的に学習し、困難を乗り越える力 (3) 自らが自主的に進路決定を行える力 	1通	70				○		○		○	

51	○	アッセンブリーアワー	<p>学校生活を通して、充実した学びと自己実現を図れるようになることを目的として、以下の力を身に着けることを主な目標とする。</p> <p>(1) 学校行事やクラス運営に関することを理解し、管理する力</p> <p>(2) 自らの意志で継続的に学習し、困難を乗り越える力</p> <p>(3) 自らが自主的に進路決定を行える力</p>	2通	70	○	○	○												
合計				51	科目	2520 単位 (単位時間)														

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：履修すべき全科目に合格、卒業課題の提出・合格、履修期間の出席率が80%以上、所	1学年の学期区分	2期	
履修方法：定期試験の点数が50点以上、すべての課題の提出、科目出席率50%以上	1学期の授業期間	17.5週	

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。